

第330号  
2011年  
9月14日

# どついたちニューズ

全損保日動外勤支部  
東京都中央区銀座5-13-7  
東銀座東京海上日動ビル1階  
電話 03-3542-9857  
FAX 03-3542-9858  
教宣部 発行

## 第131回 支部定期大会 たたかい続けることで 未来を展望しよう

### さらなる団結強化を目指し 新分会体制スタート

第131回支部定期大会が、9月10日（土）、東京・築地の築地市場厚生会館で開催されました。



この1年はなんと言っても和解成立後の激変した労働環境のもと、働きやすい職場環境を求め、和解条項に則した労働条件を整備させることに重点を置いて活動してきましたが、大会では、この取り組みの中であげた確かな成果を確認し、迎える2012年度、あらためて「たたかい続けることで自分たちの未来

を展望していこう」と、全員で意思統一をおこないました。



また、闘争時の強固な団結力をさらに強化していくために分会体制を再編し、分会を基点に旺盛な論議を展開していくこと、活発な活動を行っていくことも確認されまし

た。

大会は、議案採決後、大会決議を採択し、新年度支部役員を選出し、閉会しました。

#### 2012年度 支部役員

執行委員長)	澤田 伸二
執行副委員長)	及川 肇
書記長)	田中 健一
副書記長)	浅川 正純
執行委員)	真木 法男
	米沢谷道隆
	長田 元

## 闘争で培った強固な団結力をさらに高め、「未来」を全員で築いていく決議

本年 3 月 11 日、東日本を未曾有の大震災が襲った。8 月 13 日現在、その人的被害状況は、死者 15,719 人、行方不明者 4,616 人を数え、戦後最悪の自然災害となっている。幸いにも日動外勤支部組合員および家族に人的被害はなかったが、その後全国各地で続発した余震や群発地震の対応などを含め一連の大災害を目の当たりにした私たちは、補償の担い手である損害保険の社会的役割、補償を提供する募集人としての使命をあらためて痛感した。

この 1 年の私たちの運動は、和解成立後、いかに会社に和解条項に沿った労働条件を整備させるか、また働く環境が激変するなか、いかに働きやすい職場環境をつくっていくかに重点が置かれた。労使交渉を通じて顔を見せる経営の姿は、常に官僚的であり、二言目には見解の相違を口にし、一度決めたことは断じて変えない体質を持っていた。それは旧日動火災の経営者とは比べものにならないほど資本の立場を明確にしたものであり、制度廃止を強行し、不当労働行為を繰り返した資本としての身勝手さを垣間見せた。しかし、一方で確かな手応えを感じた。それは、経営が、私たちの後ろに闘争時の強固な団結力を感じ、再びその組織力を発揮させてはならないという警戒心であった。

私たちが「明日」への道筋を描けるか否かは、私たちが培ってきたこの強固な「団結力」を、引き続き持ち続けられるかどうか、会社を感じさせ続けることができるかどうか、この一点にかかっているとと言っても過言ではない。

私たちは、1 年かけて話し合ってきた「規約改定」「分会再編」を通じて、どうやったらさらに組織力が高められるかについて十分に論議してきた。その結果、分会機能を復活させ、全組合員が分会運営を通じて論議・活動し、支部執行部のもと一枚岩になることが何よりも重要であるという結論に達した。資本としての身勝手さをもつ経営に対し、この強固な団結力を背景に対峙することで、私たちはこの企業のなかでしっかりと生きていけると確信する。

労働組合にとっていかに「団結」が大切なのかは、あれだけ大きな闘争で成果をあげた私たちは身を持って経験している。すべての労働組合にとって、組合員の団結力の強さがその組織の組織力であり、すなわち会社と対峙できる保証である。再建前に比べれば、私たちの組織は人数も、財産も大きく減ったが、しかし一人ひとりの組織への団結力は、厳しいたたかいを全員でたたかい抜いてきたことによって高まり、磨かれ、再建前の組織力を凌駕していると言って良い。

私たちは、もう一度、「団結してたたかうことで自らの労働条件を拡大する」という原点に立ち返り、たたかい続けることで、自らの未来を展望することを全員で確認し、大会決議とする。

2011年9月10日

全損保日動火災外勤支部 第131回支部定期大会